

## 川崎病：子どもに忍び寄る心筋梗塞

～子どもの血管に炎症を起こし、心臓の血管を傷つける～

名古屋市にある某大学では経済学部4年生のケン太くんと医学部4年生のエイ子さんの二人が、テニスサークルの活動後に喫茶店で休憩しています。そこに同じテニスサークルのOBで名古屋市の保健センターで公衆衛生医師をしているDr. Kさんが加わりました。ちょっと3人の会話に耳を傾けてみましょう。

**ケン太くん** 最近ちょっとショックな話があつてさ。

**エイ子さん** いったいどうしたのかしら？

**ケン太くん** 僕の知り合いの子どもがね、まだ幼いのに、突然高熱を出し、その後、危うく心筋梗塞になりかけたみたいなんだよ。

**エイ子さん** それって川崎病じゃないかしら？

**ケン太くん** 川崎病？初めて聞いたよ。どんな病気なの。

**エイ子さん** 川崎先生（医師）が発見した病気で、赤ちゃんの時から足のかかとの皮膚が腫れたり、高熱を出したりするのよ。日本では年間に0歳から4歳までの子どもの1000人に対し3人から5人の割合で発症するそうよ。

**ケン太くん** そっかあ。子どもの高い熱は親も含めて大変そうだなあ。

**エイ子さん** 川崎病は、ウイルス感染が発病に関わっていると言われていたけど、詳細はよく分かっていないそうよ。最悪、心筋梗塞になる可能性があるとか。

**ケン太くん** 話を聞くまで心筋梗塞になるのは、大人と高齢者世代だけかと思ったよ。

**エイ子さん** いいえ、赤ちゃんも心筋梗塞で亡くなることはあるのよ。特に川崎病の場合は、発症後1か月後をピークに、心筋梗塞による突然の死亡が認められていると聞いたわ。ケン太くんのお知り合いの子どもさんは大丈夫かしら。

**ケン太くん** すごく熱を出してから数か月後に、異常があったと聞いているけど、検査であまり心配はない様子だったよ。高熱の他に目が赤くなっていたそうだ

よ。

**Dr. K** 川崎病の診断基準には次のようなものと小児科のWebサイトや医学参考書に書いてあったのよ。

川崎病の診断基準（5項目以上で川崎病と診断）

- ①5日以上続く37.5℃以上の発熱
- ②発熱後3～4日目に出現する様々な発疹 ほっしん
- ③両眼の白目の充血
- ④唇と舌の腫れ は（イチゴ舌）
- ⑤頸部リンパ節の腫れと痛み けいぶ
- ⑥手足の赤い腫れ

**ケン太くん** なるほど、原因不明の熱だけでなく、全身の皮膚と目に症状が出る可能性があるのか。



①～⑥の症状により川崎病と診断します。

**エイ子さん** 川崎病では、冠動脈瘤、血小板数増加、BCG接種部位の赤い腫れが特徴ね。

**Dr. K** 診断基準をチェックする問診と診察、心臓の病変の早期確認が重要だわ。

**ケン太くん** 手足の赤い腫れ<sup>は</sup>やBCGの接種部位のことなら保護者でも見て分かりそうだ。

**エイ子さん** 手足の腫れの様子を見て心配なら、かかりつけ医に相談したりするのが良いわね。

**ケン太くん** 先ほどの**診断基準**に載っているような症状が小さい子どもに現れたら、病院に行ったほうが良いという感じかな。



- ・早期受診
- ・できるだけ早く治療開始

**エイ子さん** もちろん**診断基準**も重要だわ。難しいことは考えず、子どもの様子がおかしいと思ったら、すぐかかりつけの小児科などに受診してほしいわ。小さい子どもの目が赤くなっている、発熱が長く続いているなど、少しでもおかしいと思うことがあれば、相談するのがいいわね。

**ケン太くん** 受診するときは、どのようなことに気を付けるのがいいのかな、よく早期発見・早期治療が重要と言われるけど。

**Dr. K** 受診するのは、もちろん早ければ早いほど良いわ。川崎病では、**熱が出てから9日以内に血管の炎症を抑える治療を行う**ことが大切だと言われているわ。川崎病の治療を行っている医療機関なら、心臓の詳しい検査が必要かどうかについても分かりやすく説明してくれるはずだわ。専門の医療機関は待ち時間が長いこともあり、まずはかかりつけ医にという地域ネットワークになっているわ。川崎病は日本人の子どもに多い病気だし、心筋梗塞から救うためにも相談が必要よ。

**エイ子さん** 川崎病は世界的にも子どもに多いそうよ。地域でいえば、東アジア人種の子もたちに、特異的な血管の炎症が生じやすいという印象だわ。

**Dr. K** そうね。あと心筋梗塞による突然死をどう防ぐのか考えることも大切ね。川崎病だと、血液をサラサラにするためのアスピリンを内服する治療が中心ね。

**エイ子さん** アスピリンは、単に血液を固まりにくくするわけではなく、心臓の血管の炎症を抑制するわ。

**Dr. K** アスピリンはコロナ感染症で用いるロキソニンなどの消炎鎮痛薬と同じ分野の薬であり、心筋梗塞予防のためによく用いられているわね。

**ケン太くん** 川崎病、コロナ、心筋梗塞と3つの有名な病気を治すための薬の話だね。

**Dr. K** アスピリンの他に川崎病に投与されるγ-グロブリン製剤は、献血から精製されている血液製剤だわ。感染症と、免疫の関わる色々な病気の治療薬として用いられているわ。川崎病の場合、2種類の薬が共に子どもの発熱を抑え、早期の心筋梗塞を予防するわね。

**エイ子さん** 子どもの重度な血管の炎症が心筋梗塞につながることは、ケン太くんにも理解してもらえたかしら。

**ケン太くん** よく分かったよ。小さい子どもがいたらぜひ注意したいよ。

**Dr. K** 心筋梗塞といえば、肥満や高血圧から生じるものだというイメージだけど、川崎病の場合は全身の血管の炎症が長引くことが問題ね。このような長期的な心血管障害をとにかく早く見つけないといけないわ。

**エイ子さん** 子どもの高熱は原因不明の場合もあるわ。すぐに良くなった場合でも、保護者の方から小児科にご連絡していただくことで、その子の将来の心筋梗塞リスクが評価できるわけだわ。

**ケン太くん** ある朝、子どもの白目と舌が真赤になっても、驚かず受診してもらうのが理想的だね。大切な子どもの健康を守る役目は、周囲の大人たちにあると思うよ。

**Dr. K** 口の中の所見と目の粘膜は、乳幼児健診でもチェックされる健康指標の一つと言えるわ。小さい子どもを持つ父親・母親には、熱以外に、ぜひ口の中を含めた顔を大事に見てねとお願いをしたいわ。

